

「ものづくりの力」

北海道おといねっぷ美術工芸高等学校長

小幡 圭二

山の木々が赤や黄色に色づき始める頃となりました。音威子府村ならではの自然の彩りを体験できる季節がやって来ます。

さて、牛丼の話です。身近な食べ物である牛丼の歴史は案外古く、明治時代、ご飯に牛肉をのせたメニューを牛丼と名付けたことに始まります。では、牛丼1杯にどれくらいの水が使われると思いますか？調理するためにだいたい1杯くらいでしょうか？実は、1杯の牛丼に約2000ccの水が使われているのです。理由は、牛肉にあります。牛は、たくさん水を飲む動物です。また、牛の手入れにも十分な水が欠かせません。更に、牛が食べる餌、つまり、トウモロコシなどの穀物を育てるために大量の水を使うのです。牛丼を例にした話ですが、日常で何気なく手にするものの裏側には、目に見えないことがたくさんあるのです。今、何でも手に入る時代ですが、その背景に何が起きているかほとんどわからない状況があります。

おと高で学んでいる、美術や工芸に目を向けましょう。単に、絵画や工芸作品を完成させているのではありません。目的を明確にして、形にするための様々な課題を発見して解決し、段取りよく制作を進め、作品として表現するのです。そこには、思考する力、判断する力、課題を発見し解決する力、段取る力、表現する力が必要となります。そして、制作するものの裏側にある様々なこと見極める目を持つことも大変重要なのです。「ものづくり」の学びをとおし育つこのような力は、変化の激しいこれからの時代で、自分の夢を創造するために必要なものになるのです。

前期が終了し、今年度の折り返しとなります。夢の創造に向けて高校生活を価値あるものにするために、前期の学習成績を振り返り、後期の学び方をしっかりと考えてみてください。この学期間休業を有意義に過ごして欲しいと思っています。

保護者や地域の皆様には、日頃から本校教育活動にご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。お陰を持ちまして、前期を終了することが出来ました。また、「木の手づくり展札幌」にご協力いただき有り難うございました。日頃の学習成果を多くの方々からお褒めいただき、おといねっぷ美術工芸高校に学ぶ一人ひとりの頑張りを大変誇らしく思いました。

これからも魅力ある教育活動を推進する所存ですので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



学校だより

No. 3

平成27年10月2日
発行



雑 草

教務部長 川 添 龍 一

音威子府村の短い夏も終わりました。今駆け足で短い秋が過ぎ去っていきこうとしています。これからあたりが真っ白になるまでわずかの期間しかありませんが、音威子府村では十分に自然を満喫することができます。外を歩けば、道端で四季折々たくさんの草花に出会う事が出来ます。黄色い花や紫の花、小さなものから大きなもの、秋のこの時期にもたくさんの草花が溢れています。

草花に詳しくない人にもセイヨウタンポポやススキなど、誰もがわかるものは見分けすることくらいできるでしょう。しかし私たちはそれ以外の名の知らぬ草花、特に直接自分に関係が感じられないものを、「雑草」と一括りにします。

「雑草」にも、一つ一つに誰かがつけた名前もあれば、違う性質があります。よく見つめてみると、それぞれに色や形の違いがあり、図鑑などから得られる「いつ頃どこで見られるのか」という情報と相まって、とても興味深いものであることがわかってきます。スケッチしてみたり、写真に収めてみることで、作品作りのアイデアが湧いてきたりもします。

自分に直接関係ないはずの「雑草」も、目を向けてみると面白いものです。また「雑草」は大切な事を教えてくれます。みなさん、多くの方が気にも留めずに流してしまうことにも目を向けてみてください。知らないことをそこから学ぶ事ができるでしょう。知ることが増える事で、見えてくるものも変わってきます。何かに気付き感じ取る力「感性」を磨くこともできるはずで、感性は作品づくりに欠かせない能力でもあります。

この感性は作品作りだけのものではありません。様々な視点で物事をとらえてみることで、感性を働かせることは、答えのない課題に解を得る一つの方法です。四角四面な捉え方に縛られることなく、あなた独特のものを見方を大切にすること、感性を働かせることが、世界を変える可能性があるのです。

「雑草」は草花だけではありません。身の回りすべての知らない事が「雑草」です。目を向けてみよう。あなたの知らないことが見えてくるはずで。

〒098-2501
北海道中川郡音威子府村字音威子府 181 番地の 1

HP:
<http://otoineppu-ac-h.server-shared.com/>

Email:
otokoh@seagreen.ocn.ne.jp

行 事 予 定

10月

- 13日(火) 後期始業式
- 14日(水)～16日(金) 高文連美術全道大会(札幌)
- 16日(金) 漢字検定
- 17日(土) 駿台ベネッセ判定模試(3年)
- 18日(日)～25(日)
国際理解教育 スウェーデン生徒受け入れ
- 24日(土) 一日体験入学
- 29日(木) 避難訓練
- 31日(土) 村講演会(旭山動物園板東園長来村)

11月

- 5日(木) 地区別懇談会(音威子府)
- 7日(土) 地区別懇談会(札幌)、匠号バスツアー
- 8日(日) 地区別懇談会(旭川)
- 14日(土) 寮祭
- 26日(木)～30(月) 後期中間考査

12月

- 5日(土) センター試験プレテスト(3年)
- 24日(木) 全校集会
- 25日(金) 帰省

生徒指導部から

生徒指導部長 大木 民 郎

生徒諸君、前期の学習、活動ともよく頑張りました。ここで一つ、自己採点をしてみましょう。

3年生は「いざという時に頼れる上級生」2年生は「実際に活動を動かす軸」1年生は「高校生らしい、自律した生徒」になってきましたか？「朝食がおろそかになってきた人」はマイナスですね。「服装や時間に慣れが出て、けじめ無くなってきた人」はまだまだですね。特に2年生の諸君へ…「はい、半分過ぎました！」と口に出して（心で）唱えてみましょう。

ところで違う話をひとつ。先日警察官の方に来校いただき、自転車運転や歩行のしかた、校外での防犯について教えていただきました。それで想起したことです。

夏休みに帰省をしたある女子生徒の体験談です。帰省の列車内で、知らない男性から声をかけられました。初めは挨拶など普通に言葉を交わしていましたが、だんだんと生徒の詳しいことを聞きたがったり、そばに来て何かと誘うなど、「不審な行動」が見られるようになりました。女子生徒はまずいことにならないように、車掌さんに話して席を移動させてもらい、家や学校に電話するなどして、結果的に何事もなく収束しました。

先生からの感想…

①知らない人でもきちんと挨拶し、普通に言葉を交わしたりできた。

②メアドや写真など、不用意な情報は話さなかった。

③不安に感じて、すぐに周囲の大人に助けを求めた。

…100点満点の行動です！ みんなも見習って「安全に暮らせる大人」になってくださいね！

進路指導部から

進路指導主事 福 澤 等

今年も本格的な受験シーズンを迎え、3学年担任が驚いていることがあります。それは、必ずしも成績が良くて普段しっかりしている生徒が、志望理由書などの書類をスムーズに書けるというわけではないということ。むしろ目立たない生徒の方が、自分でしっかりと物事を進めてやり遂げているケースが見られています。

話は飛びますが、大学受験が変革を迎えようとしています。詳細は報道等をご覧くださいと思いますが、目的の一つは、「知識の詰め込み度合」を測る試験から「思考力」「判断力」「表現力」を測る試験への移行です。勘違いしていただきたくないのですが、「『知識』は必要ない」というわけではありません。「思考力」「判断力」「表現力」を発揮するには、「知識」に裏付けされた「経験」が必要です。書類でつまずく生徒も、せつかく身につけた「知識」を「思考」・「判断」し、「表現」するだけの「経験」として、まだ生かし切れていないのかもしれない。

さて、本校では、ものづくりの「経験」をとおして「思考力」「判断力」「表現力」を育むと同時に、座学や毎日の寮の学習時間に「知識」を存分につけていただいている…筈です。ご家庭で通知箋を見ながら、偏り無くしっかり取り組んでいるか、話し合ってみてください。

木の手づくり展 (札幌)

8月3日～5日、札幌市の道庁1階ホールにて行われた木の手づくり展では、3日間で861名の来場者がありました。



高文連支部大会 (美術・工芸)



8月25日～27日、稚内市で高文連支部大会が行われ、40点が入選・佳作を獲得し、10月14日～16日、札幌コンベンションセンターで行われる高文連全道大会に参加します。

デザインスクール



9月14日～17日の4日間、高大連携教育の一環として、東海大学札幌キャンパスに行き、東海大学の教官からデザインについて学び、美術館や家具メーカーのカンディハウスなどを見学し、これからの制作作品に活かすデザインスクールに2年生39名が参加しました。

古紙回収



村内学校間連携事業の一つ、幼小中高合同の古紙回収が、8月31日に行われました。作業前には学校間での交流も行われました。

村民の方へのお願い

「高校生が車などに同乗させていただく場合について」

近年、交通事故が多発している状況の中で、万一の事故の際の責任問題などを鑑み、本校の生徒には、保護者や親戚以外の車などに同乗しないよう指導をしています。何かの必要があり、本校の生徒を同乗させていただく場合は、事前に高校寮までご連絡ください。
(チセネシリ寮 5-3818)